

平成27年度 授業改善推進プラン

教育目標

- 日本国憲法○教育基本法
- 学校教育法○学習指導要領
- 東京都教育目標
- 港区教育目標

- やさしい子
- よく考える子
- ◎元気な子

- 学校・家庭・地域の願い
- 保護者・地域の期待や願い
- 期待される児童像

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

- ☆低・中・高ブロック別区講師や少人数指導を活用し、習熟度別学習による、個に応じた指導を一層充実する。
- ☆授業規律を確立するための授業スタンダードを徹底し、学び方をしっかりと身につけ、基礎・基本の確実な定着を図る。
- ☆地域・企業等を活用したゲストティーチャーによる日頃体験できない学習の充実を図る。
- ☆15分モジュールの工夫により、読書活動、国際科教育の充実や読み聞かせボランティア等教育ボランティアとの連携を図り、確かな学力の定着に向けた指導効果を向上させる。
- ☆授業評価や外部評価、学力調査の結果を分析し、課題を明確にした上で、指導計画の見直しを行い、授業改善を図る。

各教科の指導の重点を確実に児童に身に付けさせるため次の取組を行います

道徳教育の指導の重点	教科名	取組内容	生活指導の重点
*今後も、校内研究の1つである「心の健康」の中のソーシャルスキルトレーニングの取組みを生かし、自己肯定感や他者への思いやりの心を育てていく。	国語	*低学年から、各教科で自分の考えや感想を文章で表機会を多く設定する。また国語の作文指導にさらに重点を置き、構成メモを作成して文章を書き、推敲する経験を多くもたせる。	*学年・学級の生活指導上の課題を明確にし、児童にその課題を自覚させながら、改善を目指していく。 *引き続き、大人が率先して挨拶をして手本を示す。また、家庭の理解や協力をさらに促すとともに、しっかりと身に付いている児童を誉め、感化させる。
	社会	*意欲の高さを認め誉めながら、まとめる方法についても、写真や表、グラフなど多様にあること、より適切な方法を選ぶ力が養われるよう指導していく。	
	算数	*東京ベーシックドリルを活用し、反復練習を重ねて計算のさらなる習熟を図る。また、考え方の様々な表し方を示し、それらを使って自分の考えを表現する経験を多くもたせる。 *今まで以上に、量感の予想や実測等の算数的活動を多く取り入れ、確かな量感を養っていく。	
	理科	*理科においても言語活動を意図的に取り入れ、授業後や単元末に用語を正しく用いながら学習感想を書かせる。	
	生活	*どんな小さな気付きも認めるとともに、見本となる表現を紹介し、例示を示す。	
	音楽	*音楽朝会や音楽会などで、互いに聴き合う機会をもち、その美しさを理解してさらに身に付けさせていく。 *一曲を分割し、スモールステップで練習させる。	
	図画工作	*課題のヒントを提示すると共に、鑑賞の機会を増やし、制作への視野を広げていく。また、個々の価値観を認め、誉め、自信を持って最後まで制作に取り組めるよう支援する。	
	家庭	*調理実習や洗濯、被服実習等の体験学習を通じて衣服住に関する知識・理解を深め、学習後の実生活でも意欲的に実践できるように指導する。	
	体育	*個人差に応じたスモールステップをふむことにより、苦手意識をもつ児童の意欲と技能の向上を図る。また、特に器械運動などでは、二人担任制を十分に生かし、能力別指導で技能の効果的な向上を目指す。	
	国際	*NTと連携し、学習内容やフレーズの意味などを児童がより理解しやすいように示し方を工夫し、安心感と自信をもって話せるよう励ましていく。また、ペアやグループでの活動をさらに取り入れ、全員が授業に参加できるようにする。単元ごとに振り返りカードを使って、できるようになったことに気付かせ、自信を持たせていく。	
総合的な学習の時間の重点			進路指導の重点
*調べた内容を理解し、自分の言葉に直してまとめたり分かりやすく伝えたりできるように、指導を徹底させる。			*高学年では、三田アカデミーとの連携を図りながら中学校に向けて必要な指導を繰り返していく。また中学校の情報を随時児童に伝え、希望や意欲をもたせていく。また、社会科と総合的な学習の時間を中心に、職業について調べたり考えさせたりしていく。

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導方法・指導体制の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○情操教育（音楽会・花育）の設定 ○国際科モジュールの設定 ○ワクワクタイムの設定	○少人数指導の工夫 ○RASとの連携強化 ○ICT機器の活用 ○体験学習・調べ学習の充実	○複数指導者による評価 ○指導計画の見直し ○教師相互による評価 ○外部評価の充実	○年6回の全体授業研究・外部講師による指導、全員が研究主題に沿っての授業 ○人権教育研修の実施 ○計画的にOJT研修の実施	○教育ボランティアの活用 ○家庭学習の工夫 ○個人面談の充実 ○開かれた学校づくり ○外部人材との指導連携